

水曜通信28

東北学院宗教センター編

2023年
6月

第63回 水曜公開礼拝

2023年6月21日(水) 18:30-19:00



<礼拝次第>

前奏：J.L.クレープス作曲

コラール編曲「我らみな唯一の神を信ず」

讃美歌：34番 「いのちのたびじは」

聖書：ローマの信徒への手紙 7章20-25節

讃美歌：249番 「われつみびとの」

説教：「私の中に住んでいる罪」

頌栄：544番 「あまつみたみも」

後奏：J.S.Bach作曲

コラール編曲「来たれ聖霊、主たる神」 BWV652a



説教
宗教センター主任
大学宗教部長
原田 浩司



奏楽
本学教養学部教授
大学オルガニスト
今井 奈緒子

後奏の後、今井奈緒子氏(大学オルガニスト)によるオルガン演奏による賛美を行います。

次回第64回水曜公開礼拝は2023年7月19日です。

第62回 水曜公開礼拝報告（説教：佐藤 由子、奏楽：椎名 雄一郎）

2023年5月17日（水） 18：30－19：00

讃美歌：39番 「ひくれてよははくらく」
聖書：詩編 90編
讃美歌：第二編 4番 「この世にあかしをたて」
説教：「閉じられた扉と開かれた扉」
頌栄：545番 「ちちのみかみに」



【説教要旨】

詩編90編は、唯一、モーセの詩として記されている詩編です。またこの詩編は、私達の為に与えられている、祈りの言葉でもあります。

私達は時に、自分の人生を自分で決めてしまいます。閉じられた扉を必死で開けようとしてしまいます。しかし神は、必要な時に、進むべき扉を開かれるお方です。はかない存在である人間を、神が深く愛されていることは、キリストの十字架が証しています。

「生涯の日を正しく数えるように教えてください…私たちの手の働きをどうか確かなものにして下さい。」私達は、日々祈り、聖書の言葉に聞き、神の備えられる時を、待つ者でありたいと願います。

（宗教センター主任 佐藤 由子）

前奏：F.メンデルスゾーン 前奏曲 ト長調（前奏曲とフーガ ト長調 作品37-2より）
後奏：F.メンデルスゾーン アンダンテ 二長調（ソナタ第6番作品65-6より）

前奏、後奏ともF.メンデルスゾーン・バルトルディ（1809-47）の作品です。メンデルスゾーンは19世紀ドイツの作曲家で唯一、オルガニストとして活躍しました。また彼自身プロテスタントの信仰者として一生を送ったことでも有名です。前奏曲とフーガともちろんのこと、《6つのソナタ集》に収められている作品も礼拝用の作品として創作されています。
（文学部教授 椎名 雄一郎）



礼拝とその後19時00分から30分までの椎名 雄一郎氏によるオルガンによる賛美に35名の方が参加されました。

礼拝後、音楽による賛美（オルガン独奏・奏楽：椎名 雄一郎）

1. J.S.バッハ作曲 〈装いせよ、おお愛する魂よ〉 BWV654
2. F.メンデルスゾーン・バルトルディ作曲 ソナタ第4番 変ロ長調 op.65-4
 - I Allegro con brio
 - II Andante religioso
 - III Allegretto
 - IV Allegro maestoso e vivace

礼拝讃美歌に39番「ひくれて四方はくらく」が選ばれています。この讃美歌はイギリスで歌い継がれてきた歌で、現在でもイギリスのサッカーの試合時等で歌われる、イギリスを代表する讃美歌でしょう。今回はイギリスにちなんでメンデルスゾーンを取り上げました。メンデルスゾーンはソナタ第4番を含む《6つのソナタ》をイギリスの出版社の依頼によって発表しました。当初はイギリスの伝統的なオルガン作品Voluntaryを依頼されましたが、ドイツで教育を受けたメンデルスゾーンはVoluntaryとしてどのような作品を書けばよいかわからず、「ソナタ」として作曲しました。各楽章はそれぞれ小品として作曲されたものを、ソナタとしてまとめています。いずれにせよ礼拝のための作品集として、現在でもよく演奏されます。冒頭のJ.S.バッハ作曲〈装いせよ、おお愛する魂よ〉はメンデルスゾーンが愛奏したことで有名な作品です。バッハとその影響を受けたメンデルスゾーンの2人の作品をお楽しみください。
（椎名 雄一郎）



— TGCFの活動がはじまりました！—

TGCFの第1回目の集いが4月27日（木）に行われました。ミュージック サービス（音楽礼拝）は、学生による司式で、讚美や証しなどが献げられる、新しい形式での礼拝です。第1回目は「新しい歌（詩編96編）」をテーマに、ワーシップチームと共に3曲、聖歌隊の皆さんには、アイオナ共同体の讚美歌をご紹介いただきました。学生の出席教会の方々や宣教団体の方々も駆けつけて下さり、約40名の方々と共に礼拝を献げることができたことは大きな恵みでした。

また5月11日（木）には、第2回目の集いとして、イングリッシュ カフェ（国際交流）が行われました。仙台で活動されている宣教師の方々の証しを聞き、英語での交わりを楽しみました。様々な学部・学年の方々が参加され、良き学部間交流の場ともなっています。

今年度は、毎月第1木曜日にイングリッシュ カフェ、第3木曜日にミュージック サービスが行われる予定です。（宗教センター主事 佐藤 由子）



音楽礼拝【聖歌隊】



音楽礼拝【ワーシップチーム】



イングリッシュ カフェ

— 建築が語る東北学院の歴史（19）—

多方面で活躍した東北学院の卒業生の中に、牧師兼建築家として、大正～昭和期の東北地方の教会史に確かな足跡を残した人物がいます。本号から数回に分けて、この人物について紹介したいと思います。

氏名は羽生義三郎。1889年に現在の秋田県秋田市に生まれ、1905年（数え年17歳）に受洗（秋田教会にて）。1910年に県立秋田工業学校の建築科を卒業したのち東北学院神学部別科に進学し、1917年3月に卒業、同年4月26日に按手礼を受領しました。

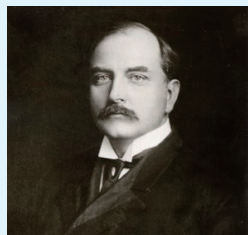
在学時から「東北学院神学生」として「夏季伝道応援」等に向向っていた羽生は、卒業後、東北各地の教会で牧師として伝道に従事する傍ら、建築に対する専門知識を活かして、教会施設（会堂・牧師館など）の建設にも力を尽くしたようです。彼が初めて設計に関わった教会は山形県の新庄教会と見られますが（1922、ただし着工には至りませんでした）、この時の新庄教会の牧師は、神学部別科を彼と同じ年に卒業した斎藤一でした。（工学部 崎山 俊雄）



57歳頃の羽生義三郎（写真中央）
出典：「日本基督教団下ノ橋教会の百年」

宣教師たちの生涯と思想（4）ヘンリー・K（ケラー）・ミラー先生の生涯

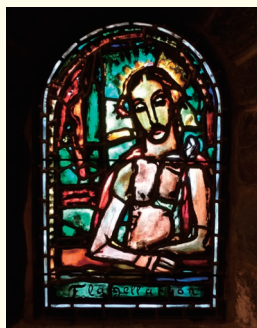
ミラーの生涯については、『東北学院百年史』に詳しく書かれています。1866年にペンシルヴァニア州レバノン市に生まれ、フランクリン・アンド・マーシャル大学を卒業後、ニューヨークのユニオン神学校に進み、1892年に修了しています。合衆国改革派教会の5番目の男性宣教師として来日した後は、主に伝道活動に従事しましたが、短期間ではありましたが、東北学院や宮城女学校での教育にも携わっています。ミラーの精力的な伝道活動により、山形、秋田県では複数の伝道の拠点が生み出されました。さらに後半生に居を移した東京、埼玉各地でも教会形成に尽力しました。1936年、70歳で没するまで生涯を日本伝道に捧げた宣教師でした。



ヘンリー・K・ミラー
写真提供：宮城学院資料室

(大学宗教主任 藤野 雄大)

講演会「ルオーと山下りん」報告



ジョルジュ・ルオー(原画)
ポール・ボニー(ステンドグラス制作)
《笞打ち(辱めを受けるキリスト)》
1948-49年
アッシー教会西正面ナルテックス
83.2 x 59.2 cm

3月1日に宗教センター主催で「ルオーと山下りん：キリスト教美術の現在：ゲルハルト・リヒターまで」と題した講演会を開催しました。まず理事長特別補佐(当時)の鐸木道剛が、趣旨説明として東北学院にある美術作品を紹介し、その後、西南学院大学の後藤新治名誉教授が、「ジョルジュ・ルオー：教会と美術」の演題で、20世紀中頃、カトリック美術の刷新を考えたフランスのクチュリエ神父(Marie-Alain Couturier 1897-1954)による1950年のスイス国境近くモンブランを臨む高台の小村アッシーでのノートル＝ダム＝ド＝トゥ＝グラース教会の装飾を紹介されました。そこでクチュリエ神父は「才能を欠く信者より、信仰のない天才に任せた方がよい」としてルオーのような敬虔なクリスチャンのほか、無神論者(ボナール、ブラック、マティス、リシエ)、ユダヤ教徒(シャガール)、コミュニスト(レジェ、リュルサ)らに制作を依頼しました。

それに続いて、鐸木道剛は「山下りん：模写の美術」と題して、8世紀のビザンティンのイコン論によると、物質世界は神の受肉によって全て聖化され、それゆえ美しいものを虚しいと退けるのではなく肯定できる。そして魔術的なものですら、キリスト教を支えているとして、最近のゲルハルト・リヒター(1932年生)のステンドグラス作品を引用しました。美しいもの、それは永遠を指し示すものであり、また未知の新鮮な体験でもあります。制作者は問いません。これはクチュリエ神父の方針と因らずも一致した結論となりました。51名の方が参加されました。

(史資料センター客員研究員 鐸木 道剛)



山下りん画
《チフヴィンの聖母》
制作年不詳
東京個人蔵 18.4 x 15.1cm



いのち

ひかり

あい

東北学院スクールモットー
LIFE LIGHT LOVE (いのち・ひかり・あい)

東北学院宗教センター編「水曜通信」
第28号

2023年6月7日発行

〒984-8588 仙台市若林区清水小路3-1

発行責任者：宗教センター主任 原田 浩司

東北学院宗教センター TEL：022-354-8310

Email：c.center@mail.tohoku-gakuin.ac.jp